

第 3 分科会

調査・研究

第3分科会 調査・研究に関する事情聴取の集約結果

主題 一人一人の教育的ニーズに応えることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無〔()内は機関数〕

①調査・研究している(した) (51) ②予定している (0) ③予定はない (9)

(2) 研究の方法(期間)

①1年間 (18) ②2年間 (24) ③3年間 (3) ④4年間 (2)

(3) 研究の内容

①【小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究】 (26)

- ・ 早期からの継続した教育支援体制の整備に関する研究—小・中・高をつなぐ「引継ぎシート」の開発・試行を通して—
- ・ 感情制御に関する問題行動等についてのアセスメントの進め方の検討
- ・ 発達障害の可能性のある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査研究～合理的配慮の提供の充実に向けた実践研究～
- ・ 高等学校での指導の充実を図るための調査・研究
- ・ 子供一人一人の「分かり方の特性」を生かした指導法に関する研究
- ・ 高等学校における特別支援教育の在り方と学校スタンダード作成に向けた研究
- ・ 読み書きのつまずきに対する早期発見・支援に関する学校支援について
- ・ 子ども、保護者と、学校の良好な関係づくりについて研究する。特に、合意形成のもとで対応することについて重点をあてる。
- ・ ユニバーサルデザインの授業づくりについて、平成25～30年にかけて、県内6圏域の小中学校各1校を2年間ずつ研究指定校として指定して実施した。
- ・ 思いやりをもって関わり合い、互いに高め合える学級集団づくり
—生徒指導の三つの視点を生かして、学級活動を核とした人間関係作りの取組を通して—
- ・ 読み書きに困難のある児童生徒へのICT活用による学習支援
- ・ 「インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究」～通常学級教員への障害のある子どもの教育的支援についての理解啓発(特総研指定)
- ・ 読み書き障害のアセスメントと効果的な指導の在り方の実践研究
- ・ 通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の指導・支援に関する研究
- ・ 令和元年度 通常の学級における学習につまずきのある児童への指導・支援の工夫
—「計算する・推論する」ことに対する実態把握を通して—
- ・ 通常の学級における特別支援教育の充実として、学校全体で取り組むポジティブな行動支援の研究(スクールワイドPBS)を実施している。
- ・ 通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり
- ・ 学力向上の取り組みの充実をめざす新たな視点について
～「学びにくさのある子供たち」の指導の工夫を通して～
- ・ 校内研修の充実を目指す(校内支援の在り方)
- ・ 特別支援教育体制充実事業として、コーディネーターに対するアンケート調査を実施。
- ・ インクルーシブ教育の推進に係る研究
- ・ 科学的根拠に基づいた特別支援教育を、学校全体として推進するための包括的システムのモデル構築
- ・ ユニバーサルデザインの視点を意識した通常の学級での授業作り
- ・ インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の充実(合理的配慮提供の7steps)
- ・ 教育センタープロジェクト研究「カリキュラム・マネジメント」の研究
- ・ インクルーシブ教育システム構築に向けた通常の学級における学びを支える方途

②【特別支援学級・通級指導教室に関わる研究】 (20)

- ・ 自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒の適切な教育課程編成に関する実践研究
- ・ 小・中学校における特別支援教育の充実に向けた実践的研究
- ・ 中学校における通級による指導の充実について
- ・ 特別支援教育に係る学校ニーズへの対応
- ・ キャリア教育の視点を踏まえた小・中・高等学校における特別支援教育の在り方

- ・ 学習障害等のある児童生徒への支援の充実に関する研究
—アセスメント方法、指導方法及び教材教具のあり方について—
- ・ 県内の小・中学校及び高等学校の発達障害を対象とした通級指導教室の概況や通級指導担当者のニーズを把握し、ニーズに合ったスタートブックを作成した。
- ・ 社会生活を送る上で必要な力(ライフスキル)の視点を取り入れた自立活動の実践を、小・中学校と特別支援学校が協力して研究に取り組む。
- ・ 特定の小学校及び中学校を研究協力校とし、授業改善等に関わった。
- ・ 特別支援学級担任等を支援するための、ホームページ等の充実に向けた取組
- ・ 特別支援学級における自立活動の指導のガイドブックを作成し、研究協力校の実践を通して、効果を検証し、改善を図る。そして、活用事例を含め研究成果を公開する。
- ・ 一人一人のニーズを踏まえた自立活動の指導の進め方
—小・中学校及び義務教育学校の特別支援学級における指導の提案—
- ・ 自立活動の指導の充実
- ・ 見る力や聞く力など、認知機能に困難さのある児童生徒を対象とした指導の在り方に関する研究
- ・ 巡回型指導の研究
- ・ 特別支援学級の教育課程編成の在り方に関する調査研究
- ・ 特別支援教室と在籍学級とのよりよい連携の構築について
- ・ 通級指導教室での学びを通常の学級で般化するための研究
- ・ 異学年集団である特別支援学級で通常の教育課程を実施する学級経営や指導の方法
- ・ 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
(通級による指導担当教員等専門性充実事業)

③【特別支援学校に関わる研究】 (17)

- ・ 知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえた国語科の指導について、調査研究協力校の実践を参考に、指導内容や教材例を指導資料としてまとめ、指導の充実に資する。
- ・ カリキュラム・マネジメントを行うためのツールの開発
- ・ 特別支援学校における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する研究
- ・ 特別支援教育における外部専門家の活用についての研究
- ・ 「自立活動の指導力量形成チェックシート」の活用と検証
- ・ 特別支援学校における主体的・対話的で深い学びに関する研究
- ・ 学校における医療的ケア実施体制構築事業
- ・ 知的障がい特別支援学校の緊要な課題の解決を図るための実践研究
知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における各教科の指導の充実～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～
- ・ 特別支援学校における自立活動の指導のあり方
—指導と評価の一体化を図る指導改善サイクルに視点をあてた取組を通して—
- ・ 次世代を担う特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの育成
- ・ 平成30年度 知的障害のある生徒の望ましい人間関係を育む授業の在り方
—「共感的人間関係を育成する」振り返りの充実を通して—
- ・ 特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・ 長期研究員と研究員による1年間の研究実践。
社会に開かれた教育課程の実現に向けた地域連携による取組の充実
—特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの視点から—
- ・ 平成29年度 特別支援学校における主体的な学びを促す授業づくりの在り方
— 障害特性を踏まえた「課題発見・解決学習」の指導を通して —
- ・ 「特別支援教育に関するセンター的機能」の充実に向けて
- ・ ～特別支援教育コーディネーターの資質能力を高める研修を目指して～

④【授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究】 (11)

- ・ 研修担当が実施する特別支援教育研修講座について、講座ごとの校種や経験年数等の関係について資料を整理及び分析した。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点で、学識経験者の協力を得ながら、研究協力校における授業づくり支援を行い、授業改善の取組みを「授業づくりガイドブック」としてまとめる。
- ・ 全小学校1年生を対象とした「ひらがな聴写テスト」を実施、読み書きの実態調査
- ・ 不登校の高校生への支援の充実に関する研究
- ・ 担任一人で抱え込ませない、協働できる授業づくり、学校組織支援について
- ・ 障害に応じた児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」とは何かを明確にし、「授業設計診断4項目※」を取り入れた効果的な授業改善の在り方を提案し、授業改善に向けた取組を推進した。(※県として提唱する授業づくりの視点)

- ・ 学校生活や授業におけるルールや手順の明確化行動支援、学習支援の方法
- ・ UDLの視点を入れた主体的・対話的で深い学びとなる授業
- ・ 自閉症の児童生徒への指導の在り方に関する調査研究
- ・ 通級指導教室での個別支援の成果を、学校生活全般において発揮できるようにするための指導方法
- ・ 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
- ・ (発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業)

⑤【その他】 (1)

- ・ 特別支援教室の活用

(4) 研究の成果の還元・活用方法(複数回答可)

- ① 発表会の実施 (39) ② 冊子・CD等で配付 (26) ③ ホームページで公開 (36)
 ④ 研修に生かす (28)
 ⑤ その他 (会議で報告 教育支援委員会での報告 小・中学校に結果を文書で通知)

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(課題を3つまで、順位づけして回答)

課題	順位				計	課題	順位				計
	1位	2位	3位				1位	2位	3位		
① 研究協力校、研究協力員の決定	12	9	5	26	⑥ 教員との課題意識の共有	18	11	9	38		
② 研究協力校との連携の在り方	10	8	3	21	⑦ 校内の協力体制	2	9	12	23		
③ 子どもの診断	1	0	1	2	⑧ 保護者の理解と承諾	0	3	10	13		
④ 子どもの実態把握	5	5	3	13	⑨ 医療機関、相談機関との連携	0	0	2	2		
⑤ 子どもに対する具体的な支援方法	4	9	7	20	⑩ その他	2	0	2	4		

その他の内容

- ・ 成果としての資料の周知・活用
- ・ 教育相談件数増加に伴う研究時間の確保
- ・ ニーズに応じた研修のテーマ設定
- ・ 調査・研究内容の構想

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒の支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究

①【ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりにかかわること】 (15)

- ・ 小・中・高等学校の各教科等における実施状況 実施後の学習上の効果について調査分析
- ・ 通常学級で個別に支援を行うことが難しい。学級経営・授業づくりを含め、効果的な支援方法について昨年度、調査・研究を実施しまとめたが、さらに実践例等を発信したい。
- ・ 障害のあるなしに関わらず、すべての子どもが共に学ぶインクルーシブ教育の実現
- ・ 発達障害のある児童生徒への有効な支援を通常の学級において実現するため、通級指導教室で実施する「個への支援」を学級・学校のスタンダード化を図ることによって「集団支援」につなぐ具体的方策・手立てを探る
- ・ 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援について、全体での授業を通したどの生徒にも有効な授業を展開しながら、少人数や個別に対応が必要な児童生徒への支援をどう行うことが有効かという内容について研究する。
- ・ 学校現場等で活用できるように、障害種別に応じて様々な情報の整理について。
- ・ 特に、高等学校における特別支援教育の推進と基礎的環境整備やユニバーサルデザインの授業についての理解と実践は課題になっている。それらにかかわる研究が必要。
- ・ 中学校及び高等学校におけるユニバーサルデザインの授業
- ・ 中学校・高等学校段階の生徒たちの自己肯定感を維持・向上させるための特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりや学級づくり、学校体制づくりの在り方
- ・ 主体的・対話的な深い学びにつなげるユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり(ICTの活用を含む)
- ・ 基本的な授業力の向上
- ・ 通常学級における支援が必要な児童生徒の「学び」を支えるための指導法、指導内容に関する研究

- ・小中高等学校各校種における、支援が必要な子どもを含めた学級作り、授業作りの実践
- ・学校風土、学級風土を向上するための教員の意識や技能の向上について
- ・基礎的環境整備の視点を踏まえた通常学級での授業づくり研修の内容・方法

②【発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制にかかわること】 (19)

- ・発達障がいのある児童生徒への指導内容や指導方法の事例の蓄積
- ・ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、合理的配慮に関わること
- ・本人の「困っている状態」に寄り添い、支援するための方策について、理解啓発を進めるための工夫の在り方
- ・通級の指導担当者の専門性及び指導力向上に係る研究
- ・通級による指導を担当する教員に必要な専門性及びニーズを明らかにし、教育育成指標に応じた系統的な研修のあり方を検討する。
- ・発達障がいの可能性のある児童生徒への合理的配慮の提供及びICTの活用の在り方
- ・個別の指導計画を生かした指導の実際
- ・通常の学級における発達障害のある児童生徒への自立活動に相当する指導と評価の在り方について
- ・学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫について考えるためのチェックシート作成
- ・有効な指導方法等が校内で共通理解されているか、個に応じた指導・支援の効果が検証されているか等
- ・特別な支援を必要とする子どもの理解と支援について学ぶ。(子どもの見方とらえ方)
- ・通級指導教室と通常の学級との連携、連続性のある指導の在り方
- ・集団の中で安心できる学級経営の工夫 発達障害のある子供の状況を、「どこまで、どのように」周りの子供に理解させるか。
- ・発達障害についての理解と様々な子供が在籍する通常の学級における授業・支援のあり方、学級経営の仕方等
- ・発達障害のある児童生徒に対する、個々の教育的ニーズに応じた支援を提供するために、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成・活用した指導の在り方
- ・学習上、生活上の表出する困難の要因分析と、適切な指導方法の設定
- ・通常の学級における発達障害等のある児童生徒を対象とした研究については、特に、幼稚園・保育所・認定こども園及び高等学校を視野に入れていきたい。
- ・発達障害を含めた「学びにくさ」のある子供たちの実態把握のための具体的なアセスメントの提案が必要。また、それぞれの学び方に合った指導方法や教材教具の工夫を進めることにより、子供たちの授業参加を促す学習環境作りと、学習理解を助ける指導方法の充実についての研究等。
- ・UD(ユニバーサルデザイン)の視点に基づく授業づくりの取組を基に「個の特性に応じた支援」を組み込み、学び(授業)の質の向上を図るとともに、教科の特性に応じたつまずきを明確にし、教科の専門性を生かした指導方法の改善を進める。
- ・子どもの発達の状態と特性について学級担任が行えるアセスメントについて
- ・授業主担者と、特別支援教育支援員やチームティーチャーとの授業におけるより効果的な連携方法
- ・発達障がいの子どものつまずきやすさに応じたソーシャルスキル・ライフスキルに関する指導
- ・支援を学校生活や授業の中にどのように保証していくか
- ・通常学級に在籍する発達障がいのある児童生徒の自立活動の指導について

③【合理的配慮にかかわること】 (12)

- ・発達障がいの児童生徒の実態を踏まえた、適切な合理的配慮の提供の在り方について
- ・合理的配慮の提供状況と、提供に際した保護者の合意形成のプロセス
- ・校内における発達障がいを含む特別な支援が必要な児童生徒たちへの支援体制の充実(合理的配慮の提供の充実)
- ・個別的教育支援計画等を活用した指導・支援及び引継ぎに関する事など
- ・合理的配慮に対して未だ理解が不十分で申し出ても提供されないケースや申し出をためらうケースが多い。
- ・知的な能力がグレーゾーンでのLDのある児童生徒の学習の在り方、合理的配慮のすすめ方
- ・子ども、保護者、学校が一体となり、合意形成を得たうえで支援を行う体制づくり。合意形成を得ないまま学校が考えた方向で行ってしまうことへの課題を共有する。
- ・ICT機器を活用した代替的なアプローチによる指導法の普及・啓発
- ・個別的教育支援計画・個別の指導計画に基づく合理的配慮の展開
- ・指導事例の収集
- ・合理的配慮を行う上での校内での共通理解の図り方や、進級・進学に伴う切れ目ないスムーズな引継ぎについて(個別的教育支援計画や個別の指導計画の有効な活用の仕方)
- ・合理的配慮事項についての校内での共通理解の状況と実際の合理的配慮の提供状況の確認

④【校内体制の整備や協力体制の充実に関わること】 (7)

- ・ 高等学校を中心とした校内体制の整備・充実に関すること
- ・ 児童生徒の的確な理解を踏まえた校内支援体制の確立、組織的な対応
- ・ 通常の学級に在籍する児童生徒の学習保障について、学級担任と通級指導教室担当教員や特別支援教育コーディネーターが連携し、組織的に個別の支援を行った好事例の収集
- ・ 通級指導教室担当者とは在籍学級担任等との連携
- ・ 実践を進めていく上での、保護者の同意。
- ・ 発達障害のある児童生徒に対する校内支援体制の構築と養護教育センターの支援
- ・ 通常の学級において、学習進度や多様な学び方に対応できる体制整備に関する研究
- ・ コーディネーターを中心に、各担任による授業づくりを支えたり、取り出し指導が持続的に実施できたりすることが可能な校内支援体制づくり

⑤【特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること】 (4)

- ・ 全ての教員が発達障害への理解を深め、障害の状態に応じた適切な指導・支援を実施できるようにすることが必要であると考えため。
- ・ 管理職の理解 中学校教員の意識向上
- ・ 共生社会を実現するために、障がい特性の理解を踏まえたうえで、障がいのあるなしに関わらない人としての関わり方等の内容が必要と考えられる。
- ・ 新学習指導要領各教科の解説では支援が必要な児童生徒への具体的な支援方法が示されている。その支援方法や、児童生徒の実態から必要とされる支援方法を実践し、その成果についての研究。

⑥【その他】 (2)

- ・ 学び方の違いによる多様な学習方法の選択・活用
- ・ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の学齢期以降を見据えた支援の在り方

4 3以外に今後必要と考える調査・研究

①【特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること】 (23)

- ・ 学習指導要領を踏まえた知的障がい特別支援学校における指導計画の在り方
- ・ 各障がい種に応じた自立活動の単元構想及び授業づくりの取組
- ・ 通級指導教室担当教員の研修と通常の学級との効果的な連携に関する調査・研究
- ・ ICTを活用した授業づくり
- ・ 高等学校通級指導教室における支援の実際と取組事例
- ・ 小中学校における通級指導担当者の専門性の向上
- ・ 通級指導教室担当教員の資質向上
- ・ 通常の学級と通級指導教室との連携の在り方と個別の指導計画の活用について
- ・ 通級指導教室における実践や具体的取り組みについての研究
- ・ 高等学校における通級による指導の実施形態について
- ・ 知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの在り方
- ・ 高等学校における通級指導教室に関する研究
- ・ 特設した自立活動の時間における具体的な授業内容について
- ・ 特別支援教育に関するセンター的機能の充実に向けて、特別支援教育コーディネーターの資質能力を高める研
- ・ 児童生徒数の増加と障害の多様化が進む特別支援学級における指導の在り方
- ・ ニーズに応じた専門性の向上
- ・ 特別支援学級における学級経営、指導法
- ・ 研修等により特別支援教育に精通した教員を増やすための調査・研究
- ・ 合理的配慮の観点から踏まえた個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成及び活用状況に関する調査
各校園における効果的な支援方法及び実践事例の蓄積と活用に関する研究
- ・ 特別支援教室への転換が本市にとって有用であるかどうか
- ・ 特別支援学級、通級指導教室担当教員の専門性向上
- ・ 教員の専門性を向上させるための研修内容・方法
- ・ 通級指導教室で指導を受ける児童生徒の増加にとまらぬ、通級指導教室の担当と在籍校担任との連携について

②【高等学校に関わること】 (13)

- ・ 校内支援体制の整備調査
- ・ 特別な教育的支援の必要な生徒の進路指導に関する調査
- ・ 高等学校における特別な支援が必要な生徒への支援方法
- ・ 生徒一人一人の学びを支える指導及び支援に関する研究—読み書きの基礎につまずきがある生徒の「分かり」
- ・ 高等学校における通級指導の現状と課題
- ・ 個別の教育支援計画に基づいた中学校と高等学校との連携の実際と効果的な引継ぎについて

- ・高等学校における、特別支援体制の構築。教職員の理解を図る研修の充実。
- ・高等学校の教員、管理職の意識向上
- ・特別支援教育コーディネーターの役割を理解し、校内の特別支援教育推進のための力をつける。
- ・高等学校における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり
- ・高等学校における通級による指導の在り方
- ・高等学校における通級による指導の在り方
- ・高等学校における特別支援教育の現状と在り方

③【家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること】 (7)

- ・通級指導の対象者が増加している状況において、指導者の人材確保やスキルアップのための研修のあり方について
- ・通常の学級における合理的配慮の在り方について
- ・個別的教育支援計画を活用した、地域における相談や連携の仕組みづくりについて
- ・関係機関との連携について
- ・インクルーシブ教育システム構築に向けての組織的な取り組みについて
- ・個別的教育支援計画の効率的な策定、運用の在り方の研究

④【新学習指導要領に関わること】 (11)

- ・通常の学級における合理的配慮の在り方について
- ・関係機関との連携について
- ・指導教諭を核とした地域の特別支援教育の推進
- ・家庭、地域、関係機関との連携、協力による資質・能力の育成
- ・関係機関との連携の在り方
- ・インクルーシブ教育システムの構築のための組織的な取り組みや、切れ目ない支援を実現するための情報共有
- ・個別の支援計画を核とした家庭、地域(福祉サービス)、学校の連携のあり方
- ・新学習指導要領に基づいた特別支援学校、特別支援学級の授業改善
- ・知的障がい教育の教育課程と学習評価について。
- ・新学習指導要領の内容を踏まえた特別支援学校の教育活動の充実
- ・新学習指導要領の内容を踏まえた特別支援学校における教科指導の充実に関する調査研究
- ・主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善
- ・新学習指導要領に対応した指導の実際、観点別評価の視点を押さえた授業づくり等
- ・カリキュラム・マネジメントによる教育課程編成の方法と知的障害のある児童生徒に対する育成を目指す資質
- ・知的障害教育における育成をめざす資質・能力に基づく授業づくり、評価の在り方についての具体例の収集
- ・特別支援学校、特別支援学級において、新学習指導要領全面実施に伴い、指導計画や評価方法、教育課程の適切な見直しが行なわれているか
- ・知的障害特別支援学校における教科等の指導に関すること(各教科等を合わせた指導の在り方を含む)
- ・評価に関する内容

⑤【その他】 (2)

- ・通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援を充実させるための研究を行っているが、現場の実態から体制構築しても実働できていない要因が⑤であると考えられるため
- ・就学前の幼児の支援から活用できる研修のあり方について。

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
2	北海道立特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒の適切な教育課程編成に関する実践研究
③	知的障がい特別支援学校の緊要な課題の解決を図るための実践研究

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	②
2位	⑥
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	発達障がいの児童生徒の実態を踏まえた、適切な合理的配慮の提供の在り方について

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	学習指導要領を踏まえた知的障がい特別支援学校における指導計画の在り方

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
3	青森県総合学校教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	小・中学校における特別支援教育の充実に向けた実践的研究

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	②
2位	⑦
3位	⑥

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	・小・中・高等学校の各教科等における実施状況 ・実施後の学習上の効果について調査分析

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	校内支援体制の整備調査

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
4	岩手県立総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	早期からの継続した教育支援体制の整備に関する研究 -小・中・高をつなぐ「引継ぎシート」の開発・試行を通して-

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	②
2位	⑥
3位	⑧

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	・合理的配慮の提供状況と、提供に際した保護者の合意形成のプロセス

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	・各障がい種に応じた自立活動の単元構想及び授業づくりの取組

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
5	宮城県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	中学校における通級による指導の充実について

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	①
2位	②
3位	⑧

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	高等学校を中心とした校内体制の整備・充実に関すること

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	新学習指導要領に基づいた特別支援学校、特別支援学級の授業改善

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
6	秋田県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	感情制御に関する問題行動等についてのアセスメントの進め方の検討

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	④
2位	⑤
3位	⑥

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
⑥	学び方の違いによる多様な学習方法の選択・活用

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	通級指導教室担当教員の研修と通常の学級との効果的な連携に関する調査・研究

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
7	山形県教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	特別支援教育に係る学校ニーズへの対応 ～「特別支援学級の手引」の改訂～

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	⑤
3位	④

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	発達障がいのある児童生徒への指導内容や指導方法の事例の蓄積

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	知的障がい教育の教育課程と学習評価について。

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
8	福島県特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	発達障害の可能性のある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査研究～合理的配慮の提供の充実に向けた実践研究～
③	知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における各教科の指導の充実～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	②
3位	①

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	・校内における発達障がいを含む特別な支援が必要な児童生徒たちへの支援体制の充実（合理的配慮の提供の充実）

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	・新学習指導要領の内容を踏まえた特別支援学校の教育活動の充実 ・知的障がい教育における新学習指導要領に準拠した「各教科等をあわせた指導」の充実

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
9	茨城県教育研修センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	キャリア教育の視点を踏まえた小・中・高等学校における特別支援教育の在り方

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	②
2位	⑥
3位	⑧

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
⑥	特別な教育的支援を必要とする児童生徒の学齢期以降を見据えた支援の在り方

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（特別な教育的支援の必要な児童生徒のキャリア教育の充実）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	特別な教育的支援の必要な生徒の進路指導に関すること

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
10	栃木県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
③	・知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえた国語科の指導について、調査研究協力校の実践を参考に、指導内容や教材例を指導資料としてまとめ、指導の充実に資する。

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

② ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	①
2位	⑥
3位	②

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	・個別の教育支援計画等を活用した指導・支援及び引継ぎに関することなど

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	新学習指導要領の内容を踏まえた特別支援学校における教科指導の充実に係る調査研究

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
11	群馬県総合教育センター (特別教育センター)

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	高等学校での指導の充実を図るための調査・研究

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	⑦
3位	⑩

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ） 成果としての資料の周知・活用

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	通常学級で個別に支援を行うことが難しい。学級経営・授業づくりを含め、効果的な支援方法について昨年度、調査・研究を実施しまとめたが、さらに実践例等を発信したい。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	高等学校における特別な支援が必要な生徒への支援方法

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
12	埼玉県立総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
	⑤特別支援教育における主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導実践に関する調査研究
②	特別支援学級の教育課程編成の在り方に関する調査研究
④	自閉症の児童生徒への指導の在り方に関する調査研究

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ 特別支援学校と特別支援学級に ）

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

② ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	①
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	児童生徒の的確な理解を踏まえた校内支援体制の確立、組織的な対応

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	I C Tを活用した授業づくり

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
13	千葉県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
③	カリキュラム・マネジメントを行うためのツールの開発

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位	⑤
2位	⑥
3位	④

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、合理的配慮に関わること

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
14	東京都教職員研修センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	子供一人一人の「分かり方の特性」を生かした指導法に関する研究
②	特別支援教室と在籍学級とのよりよい連携の構築について

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	③
2位	④
3位	⑤

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
⑤	全ての教員が発達障害への理解を深め、障害の状態に応じた適切な指導・支援を実施できるようにすることが必要であると考えるため。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	生徒一人一人の学びを支える指導及び支援に関する研究 一読み書きの基礎につまずきがある生徒の「分かり方の特性」に応じた指導及び支援の工夫

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
15	神奈川県立総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
③	特別支援学校における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する研究
④	不登校の高校生への支援の充実に関する研究

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	②
2位	⑦
3位	⑥

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	障害のあるなしに関わらず、すべての子どもが共に学ぶインクルーシブ教育の実現

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	高等学校における通級指導の現状と課題

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
16	新潟県立教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	高等学校における特別支援教育の在り方と学校スタンダード作成に向けた研究
②	通級指導教室での学びを通常の学級で般化するための研究
④	通級指導教室での個別支援の成果を、学校生活全般において発揮できるようにするための指導方法

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	④
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	発達障害のある児童生徒への有効な支援を通常の学級において実現するため、通級指導教室で実施する「個への支援」を学級・学校のスタンダード化を図ることによって「集団支援」につなぐ具体的方策・手立てを探る。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
⑤	通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援を充実させるための研究を行っているが、現場の実態から体制構築しても実働できていない要因が⑤であると考えられるため

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（特別支援教育の理念、発達障害に関する教員の理解に

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
17	富山県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	<input type="text"/>
2位	<input type="text"/>
3位	<input type="text"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
<input type="text" value="③"/>	合理的配慮に対して未だ理解が不十分で申し出ても提供されないケースや申し出をためらうケースが多い。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関ること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関ること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
<input type="text" value="②"/>	個別の教育支援計画に基づいた中学校と高等学校との連携の実際と効果的な引継ぎについて

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
18	石川県教員総合研修センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他 ()

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他 ()

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	<input type="text"/>
2位	<input type="text"/>
3位	<input type="text"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他 ()

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	本人の「困っている状態」に寄り添い、支援するための方策について、理解啓発を進めるための工夫の在り方

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他 ()

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	高等学校通級指導教室における支援の実際と取組事例

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
19	福井県特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	読み書きのつまずきに対する早期発見・支援に関する学校支援について
④	担任一人で抱え込ませない、協働できる授業づくり、学校組織支援について

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	④
2位	⑥
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	知的な能力がグレーゾーンでのLDのある児童生徒の学習の在り方、合理的配慮のすすめ方

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	小中学校における通級指導担当者の専門性の向上

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
20	山梨県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	学習障害等のある児童生徒への支援の充実に関する研究 ーアセスメント方法、指導方法及び教材教具のあり方についてー

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑩
2位	⑤
3位	⑥

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ 教育相談件数増加に伴う研究時間の確保 ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	通級の指導担当者の専門性及び指導力向上に係る研究 ・通級による指導を担当する教員に必要な専門性及びニーズを明らかにし、教育育成指標に応じた系統的な研修のあり方を検討する。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	通級指導教室担当教員の資質向上

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
21	長野県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	子ども、保護者と、学校の良好な関係づくりについて研究する。特に、合意形成のもとで対応することについて重点をあてる。

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑦
2位	⑤
3位	⑧

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	子ども、保護者、学校が一体となり、合意形成を得たうえでの支援を行う体制づくり。合意形成を得ないまま学校が考えた方向で行ってしまうことへの課題を共有する。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	高等学校における、特別支援体制の構築。教職員の理解を図る研修の充実。

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
22	岐阜県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

6年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	・ユニバーサルデザインの授業づくりについて、平成25～30年にかけて、県内6圏域の小中学校各1校を2年間ずつ研究指定校として指定して実施した。

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	④
2位	⑦
3位	⑧

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	・発達障がいの可能性のある児童生徒への合理的配慮の提供及びICTの活用の在り方

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
23	静岡県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	県内の小・中学校及び高等学校の発達障害を対象とした通級指導教室の概況や通級指導担当者のニーズを把握し、ニーズに合ったスタートブックを作成した。
④	障害に応じた児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」とは何かを明確にし、「授業設計診断4項目※」を取り入れた効果的な授業改善の在り方を提案し、授業改善に向けた取組を推進した。（※県として提唱する授業づくりの視点）

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	②
3位	①

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	個別の指導計画を生かした指導の実際

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	新学習指導要領に対応した指導の実際、観点別評価の視点を押さえた授業づくり等

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
24	愛知県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

3年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	社会生活を送る上で必要な力（ライフスキル）の視点を取り入れた自立活動の実践を、小・中学校と特別支援学校が協力して研究に取り組む。

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ④ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	④
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援について、全体での授業を通したどの生徒にも有効な授業を展開しながら、少人数や個別に対応が必要な児童生徒への支援をどう行うことが有効かという内容について研究する。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	通常の学級と通級指導教室との連携の在り方と個別の指導計画の活用について

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
25	三重県教育委員会事務局

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
④	研修担当が実施する特別支援教育研修講座について、講座ごとの校種や経験年数等の関係について資料を整理及び分析した。

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ 特別支援教育研修講座に関する調査・研究 ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	⑤
3位	⑩

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ニーズに応じた研修のテーマ設定 ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	学校現場等で活用できるように、障害種別に応じて様々な情報の整理について。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
⑤	就学前の幼児の支援から活用できる研修のあり方について。

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
26	滋賀県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	思いやりをもって関わり合い、互いに高め合える学級集団づくり －生徒指導の三つの視点を生かして、学級活動を核とした人間関係作りの取組を通して－
③	特別支援学校における自立活動の指導のあり方 －指導と評価の一体化を図る指導改善サイクルに視点をあてた取組を通して－
③	社会に開かれた教育課程の実現に向けた地域連携による取組の充実 －特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの視点から－

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	④
2位	①
3位	⑥

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	特に、高等学校における特別支援教育の推進と基礎的環境整備やユニバーサルデザインの授業についての理解と実践は課題になっている。それらにかかわる研究が必要。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関ること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	通級指導教室における実践や具体的取り組みについての研究

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
27	京都府総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	読み書きに困難のある児童生徒へのICT活用による学習支援

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	①
2位	②
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	ICT機器を活用した代替的なアプローチによる指導法の普及・啓発

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	通常の学級における合理的配慮の在り方について

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
28	大阪府教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
④	「主体的、対話的で深い学び」の視点で、学識経験者の協力を得ながら、研究協力校における授業づくり支援を行い、授業改善の取組みを「授業づくりガイドブック」

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	①
2位	⑥
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	通常の学級における発達障害のある児童生徒への自立活動に相当する指導と評価の在り方について

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	高等学校における通級による指導の実施形態について（他校通級、巡回指導を可能にする支援体制の在り方）

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
29	兵庫県立特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	「インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究」～通常学級教員への障害のある子どもの教育的支援についての理解啓発（特総研指定）
③	次世代を担う特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの育成

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位	<input type="text" value="⑥"/>
2位	<input type="text" value="①"/>
3位	<input type="text" value="⑧"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
⑤	管理職の理解 中学校教員の意識向上

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	高等学校の教員、管理職の意識向上

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
30	奈良県立教育研究所

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	読み書き障害のアセスメントと効果的な指導の在り方の実践研究

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑩
2位	①
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ 調査・研究内容の構想 ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫について考えるためのチェックシート作成

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	カリキュラム・マネジメントによる教育課程編成の方法と知的障害のある児童生徒に対する育成を目指す資質能力の3つの柱を踏まえた教育活動の充実

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
31	和歌山県教育センター学びの丘

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	特定の小学校及び中学校を研究協力校とし、授業改善等に関わった。

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	①
2位	②
3位	⑥

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	通常の学級に在籍する児童生徒の学習保障について、学級担任と通級指導教室担当教員や特別支援教育コーディネーターが連携し、組織的に個別の支援を行った好事例の収集

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	知的障害教育における育成をめざす資質・能力に基づく授業づくり、評価の在り方についての具体例の収集

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機 関 名
32	鳥取県教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答
 (①、②の回答の場合は(2)以降へ)

- ①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究
 ③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究
 ⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす
 ⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	<input type="text"/>
2位	<input type="text"/>
3位	<input type="text"/>

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断
 ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法
 ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾
 ⑨医療機関、相談機関との連携
 ⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	有効な指導方法等が校内で共通理解されているか、個に応じた指導・支援の効果が検証されているか等

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関ること
 ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること
 ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関ること
 ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること
 ⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	特別支援学校、特別支援学級において、新学習指導要領全面実施に伴い、指導計画や評価方法、教育課程の適切な見直しが行われているか

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
33	島根県教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます
 ※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答
 (①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	特別支援学級担任等を支援するための、ホームページ等の充実に向けた取組

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究
 ③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究
 ⑤その他（ ）

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす
 ⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	④
3位	⑤

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断
 ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法
 ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾
 ⑨医療機関、相談機関との連携
 ⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	・特別な支援を必要とする子どもの理解と支援について学ぶ。（子どもの見方とらえ方）

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関ること
 ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関ること
 ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること
 ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること
 ⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	特別支援教育コーディネーターの役割を理解し、校内の特別支援教育推進のための力をつける。

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
34	岡山県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の指導・支援に関する研究

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑤
2位	②
3位	①

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	通級指導教室と通常の学級との連携、連続性のある指導の在り方

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	高等学校における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
35	広島県立教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	令和元年度 通常の学級における学習につまずきのある児童への指導・支援の工夫 — 「計算する・推論する」ことに対する実態把握を通して —
③	平成30年度 知的障害のある生徒の望ましい人間関係を育む授業の在り方 — 「共感的人間関係を育成する」振り返りの充実を通して —
③	平成29年度 特別支援学校における主体的な学びを促す授業づくりの在り方 — 障害特性を踏まえた「課題発見・解決学習」の指導を通して —

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	①
2位	⑥
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	中学校及び高等学校におけるユニバーサルデザインの授業

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	高等学校における通級による指導の在り方

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
36	やまぐち総合教育支援センター内 ふれあい教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	<input type="text"/>
2位	<input type="text"/>
3位	<input type="text"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
<input type="text"/>	<input type="text"/>

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
<input type="text"/>	<input type="text"/>

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
37	徳島県立総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

4年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	通常の学級における特別支援教育の充実として、学校全体で取り組むポジティブな行動支援の研究（スクールワイドPBS）を実施している。

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	①
2位	②
3位	⑤

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	<ul style="list-style-type: none"> 実践を進めていく上での、保護者の同意。 通級指導教室担当者と在籍学級担任等との連携

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
38	香川県教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力反映されます
※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

③

- ①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

- ③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

- ⑤その他（

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

- ⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑤
2位	⑦
3位	③

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

- ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

- ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

- ⑨医療機関、相談機関との連携

- ⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	・集団の中で安心できる学級経営の工夫 ・発達障害のある子供の状況を、「どこまで、どのように」周 りの子供に理解させるか。

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

- ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

- ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

- ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

- ⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	関係機関との連携について

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

- ②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

- ④新学習指導要領に関わること

- ⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
一人一人の教育的ニーズに応じることのできる
指導・支援に関する調査・研究とその活用の
在り方

機関番号	機関名
39	愛媛県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます
※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	特別支援学級における自立活動の指導のガイドブックを作成し、研究協力校の実践を通して、効果を検証し、改善を図る。そして、活用事例を含め研究成果を公開し、現場の教育実践に資する。

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

- (4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大ききの順に記入)

1位	⑥
2位	②
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	中学校・高等学校段階の生徒たちの自己肯定感を維持・向上させるための特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりや学級づくり、学校体制づくりの在り方

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの在り方

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
40	高知県教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
③	特別支援教育における外部専門家の活用についての研究

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	①
2位	⑥
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	発達障害についての理解と様々な子供が在籍する通常の学級における授業・支援のあり方、学級経営の仕方等

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	高等学校における通級指導教室に関する研究

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
41	福岡県教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

3年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり
①	インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の充実（合理的配慮提供の7 steps）
①	インクルーシブ教育システム構築に向けた通常の学級における学びを支える方途

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	②
2位	⑥
3位	⑧

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	主体的・対話的な深い学びにつなげるユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり（ICTの活用を含む）

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	知的障害特別支援学校における教科等の指導に関すること（各教科等を含ませた指導の在り方を含む）

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
42	佐賀県教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	一人一人のニーズを踏まえた自立活動の指導の進め方 一小・中学校及び義務教育学校の特別支援学級における指導の提案一

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	<input type="text" value="①"/>
2位	<input type="text" value="⑦"/>
3位	<input type="text" value="⑧"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	発達障害のある児童生徒に対する、個々の教育的ニーズに応じた支援を提供するために、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成・活用した指導の在り方

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	高等学校における通級による指導の在り方

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
43	長崎県教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
③	「自立活動の指導力量形成チェックシート」の活用と検証
③	特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	<input type="text" value="②"/>
2位	<input type="text" value="⑦"/>
3位	<input type="text" value="⑥"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく合理的配慮の展開

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	指導教諭を核とした地域の特別支援教育の推進

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
44	熊本県立教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	自立活動の指導の充実

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	②
2位	①
3位	⑧

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	基本的な授業力の向上

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	高等学校における特別支援教育の現状と在り方

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
45	大分県教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
③	特別支援学校における主体的・対話的で深い学びに関する研究

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

② ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	①
3位	②

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	学習上、生活上の表出する困難の要因分析と、適切な指導方法の設定

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	家庭、地域、関係機関との連携、協力による資質・能力の育成

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
46	宮崎県教育研修センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位	<input type="text" value="⑥"/>
2位	<input type="text" value="⑤"/>
3位	<input type="text" value="①"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
<input type="text" value="①"/>	通常学級における支援が必要な児童生徒の「学び」を支えるための指導法、指導内容に関する研究

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
<input type="text" value="①"/>	特設した自立活動の時間における具体的な授業内容について

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
47	鹿児島県総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	見る力や聞く力など、認知機能に困難さのある児童生徒を対象とした指導の在り方に関する研究

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位	②
2位	④
3位	⑤

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	通常の学級における発達障害等のある児童生徒を対象とした研究については、特に、幼稚園・保育所・認定こども園及び高等学校を視野に入れていきたい。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
48	沖縄県立総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	学力向上の取り組みの充実をめざす新たな視点について ～「学びにくさのある子供たち」の指導の工夫を通して～
①	教育センタープロジェクト研究「カリキュラム・マネジメント」の研究
③	「特別支援教育に関するセンター的機能」の充実に向けて ～特別支援教育コーディネーターの資質能力を高める研修を目指して～

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	④
2位	⑤
3位	⑦

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	発達障害を含めた「学びにくさ」のある子供たちの実態把握のための具体的なアセスメントの提案が必要。また、それぞれの学び方に合った指導方法や教材教具の工夫を進めることにより、子供たちの授業参加を促す学習環境作りと、学習理解を助ける指導方法の充実についての研究等。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	特別支援教育に関するセンター的機能の充実に向けて、特別支援教育コーディネーターの資質能力を高める研修の在り方

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
49	千葉市養護教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

10年 年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	校内研修の充実を目指す（校内支援の在り方）

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ③

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	①
3位	④

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	発達障害のある児童生徒に対する校内支援体制の構築と養護教育センターの支援

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	関係機関との連携の在り方

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
50	川崎市総合教育センター 特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	特別支援教育体制充実事業として、コーディネーターに対するアンケート調査を実施。
③	長期研究員と研究員による1年間の研究実践。

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

③ ⑤ ①

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ 会議で報告 ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	①
2位	⑧
3位	⑥

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	小中高等学校各校種における、支援が必要な子どもを含めた学級作り、授業作りの実践

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	児童生徒数の増加と障害の多様化が進む特別支援学級における指導の在り方

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
51	横浜市特別支援教育総合センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

4年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
②	巡回型指導の研究
⑤	特別支援教室の活用

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ③ ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	①
2位	⑥
3位	⑤

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	指導事例の収集

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	ニーズに応じた専門性の向上

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
52	名古屋市教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	インクルーシブ教育の推進に係る研究
②	異学年集団である特別支援学級で通常の教育課程を実施する学級経営や指導の方法

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ② ④

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	②
2位	①
3位	⑤

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	通常の学級において、学習進度や多様な学び方に対応できる体制整備に関する研究

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	特別支援学級における学級経営、指導法

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
53	京都市総合教育センター (総合育成支援課)

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
③	学校における医療的ケア実施体制構築事業
②	発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業 (通級による指導担当教員等専門性充実事業)
④	発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業 (発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業)

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他 ()

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他 ()

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	<input type="text" value="⑤"/>
2位	<input type="text" value="⑧"/>
3位	<input type="text" value="⑨"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他 ()

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	UD（ユニバーサルデザイン）の視点に基づく授業づくりの取組を基に「個の特性に応じた支援」を組み込み、学び（授業）の質の向上を図るとともに、教科の特性に応じたつまずきを明確にし、教科の専門性を生かした指導方法の改善を進める。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他 ()

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	研修等により特別支援教育に精通した教員を増やすための調査・研究

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他 ()

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
54	大阪市教育委員会事務局指導部 インクルーシブ教育推進室

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

③

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	
2位	
3位	

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
②	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達の状態と特性について学級担任が行えるアセスメントについて 授業主催者と、特別支援教育支援員やチームティーチャーとの授業におけるより効果的な連携方法 発達障がいの子どものつまづきやすさに応じたソーシャルスキル・ライフスキルに関する指導 支援を学校生活や授業の中にどのように保証していくか 通常学級に在籍する発達障がいのある児童生徒の自立活動の指導について

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	<ul style="list-style-type: none"> 合理的配慮の観点を踏まえた個別的教育支援計画・個別の指導計画の作成及び活用状況に関する調査 各校園における効果的な支援方法及び実践事例の蓄積と活用に関する研究

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
55	広島市教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位	<input type="text" value="①"/>
2位	<input type="text" value="⑧"/>
3位	<input type="text" value="⑨"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
<input type="text" value="③"/>	合理的配慮を行う上での校内での共通理解の図り方や、進級・進学に伴う切れ目ないスムーズな引継ぎについて（個別の教育支援計画や個別の指導計画の有効な活用の仕方）

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
<input type="text" value="③"/>	インクルーシブ教育システムの構築のための組織的な取組みや、切れ目ない支援を実現するための情報共有

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
一人一人の教育的ニーズに応じることのできる
指導・支援に関する調査・研究とその活用の
在り方

機関番号	機関名
56	北九州市特別支援教育相談センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます
※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

- (1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答
(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

- (2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

1年間

- (3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
⑤	就学相談を経て入学した児童生徒の適応状況を学校や保護者に対しアンケート調査を実施。

- ①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

- ③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

- ⑤その他（ 就学措置決定後の適応状況調査 ）

- (4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

⑤

- ① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

- ⑤ その他（ 教育支援委員会での報告 ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	⑦
3位	⑧

- ①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

- ④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

- ⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

- ⑨医療機関、相談機関との連携

- ⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	合理的配慮事項についての校内での共通理解の状況と実際の合理的配慮の提供状況の確認

- ①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

- ②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

- ③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

- ⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

- ⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	特別支援教室への転換が本市にとって有用であるかどうか

- ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

- ②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

- ④新学習指導要領に関すること

- ⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
57	福岡市発達教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	<input type="text"/>
2位	<input type="text"/>
3位	<input type="text"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
⑤	共生社会を実現するために、障がい特性の理解を踏まえたうえで、障がいのあるなしに関わらない人としての関わり方等の内容が必要と考えられる。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	評価に関する内容

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
58	静岡市特別支援教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

3年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
④	全小学校1年生を対象とした「ひらがな聴写テスト」を実施、読み書きの実態調査

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

④ ⑤

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ 小・中学校に結果を文書で通知 ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	①
3位	⑤

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
④	コーディネーターを中心に、各担任による授業づくりを支えたり、取り出し指導が持続的に実施できたりすることが可能な校内支援体制づくり

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
③	個別の支援計画を核とした家庭、地域（福祉サービス）、学校の連携のあり方

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
59	浜松市教育総合支援センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	・科学的根拠に基づいた特別支援教育を、学校全体として推進するための包括的システムのモデル構築
④	・学校生活や授業におけるルールや手順の明確化 ・行動支援、学習支援の方法

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

（最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入）

1位	⑥
2位	⑤
3位	②

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・研究について

選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	学校風土、学級風土を向上するための教員の意識や技能の向上について

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	特別支援学級、通級指導教室担当教員の専門性向上

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
60	新潟市立総合教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	<input type="text" value="⑦"/>
2位	<input type="text" value="⑤"/>
3位	<input type="text" value="⑥"/>

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
<input type="text" value="①"/>	基礎的環境整備の視点を踏まえた通常学級での授業づくり研修の内容・方法

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関わること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関わること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関わること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関わること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
<input type="text" value="①"/>	教員の専門性を向上させるための研修内容・方法

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関わること

②高等学校に関わること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関わること

④新学習指導要領に関わること

⑤その他（ ）

第43回全国特別支援教育センター協議会総会・研究協議会（山梨県大会）聴取事項調査票

第3分科会
調査・研究に関する事項
 一人一人の教育的ニーズに応じることのできる指導・支援に関する調査・研究とその活用の在り方

機関番号	機関名
61	相模原市教育センター

※機関番号、機関名は、第1分科会の入力が反映されます

※ 3については、調査・研究未実施の機関も回答ください。

1 特別支援教育に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業の有無をドロップダウンリストから該当する選択肢番号を選んで回答

(①、②の回答の場合は(2)以降へ)

①

①調査・研究している(した) ②予定している ③予定はない

(2) 研究の方法（期間）をドロップダウンリストから該当する年数を選択し回答

2年間

(3) 研究の内容を下の選択肢から選択し、具体的な内容を記入（最大3つ）

研究の内容	具体的な内容
①	ユニバーサルデザインの視点を意識した通常の学級での授業作り
④	UDLの視点を入れた主体的・対話的で深い学びとなる授業

①小学校、中学校、高等学校、義務教育学校等の通常の学級に関わる研究 ②特別支援学級、通級指導教室に関わる研究

③特別支援学校に関わる研究 ④授業づくり、学級づくり、指導法に関する研究

⑤その他（ ）

(4) 研究成果の還元・活用の方法を下の選択肢から選択（最大3つ）

① ②

① 発表会の実施 ② 冊子・CD等で配付 ③ ホームページで公開 ④ 研修に生かす

⑤ その他（ ）

2 特別支援教育に関する調査・研究事業における課題

(最も課題であると考えている項目を選択肢から3項目選び、課題の大きさの順に記入)

1位	⑥
2位	⑦
3位	①

①研究協力校、研究協力員の決定 ②研究協力校との連携の在り方 ③子どもの診断

④子どもの実態把握 ⑤子どもに対する具体的な支援方法

⑥教員との課題意識の共有 ⑦校内の協力体制 ⑧保護者の理解と承諾

⑨医療機関、相談機関との連携

⑩その他（ ）

3 通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援・授業づくりに関する課題・今後必要と考える調査・

研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

課題、今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
⑤	新学習指導要領各教科の解説では支援が必要な児童生徒への具体的な支援方法が示されている。その支援方法や、児童生徒の実態から必要とされる支援方法を実践し、その成果についての研究。

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり、学級づくりに関すること

②発達障害のある児童生徒の実態把握、指導内容や指導方法、体制に関すること

③合理的配慮にかかわること ④校内体制の整備や協力体制の充実に関すること

⑤特別支援教育の理念、発達障害についての教員の理解に関すること

⑥その他（ ）

4 3以外に、今後必要と考える調査・研究について選択肢から一つ選び、その具体的な内容について記入

今後必要と考える調査・研究	具体的な内容
①	通級指導教室で指導を受ける児童生徒の増加にともない、通級指導教室の担当と在籍校担任との連携について。

①特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室に関すること

②高等学校に関すること ③家庭・学校・関係機関・地域との連携に関すること

④新学習指導要領に関すること

⑤その他（ ）